

《研究主題》 3年計画の3年次

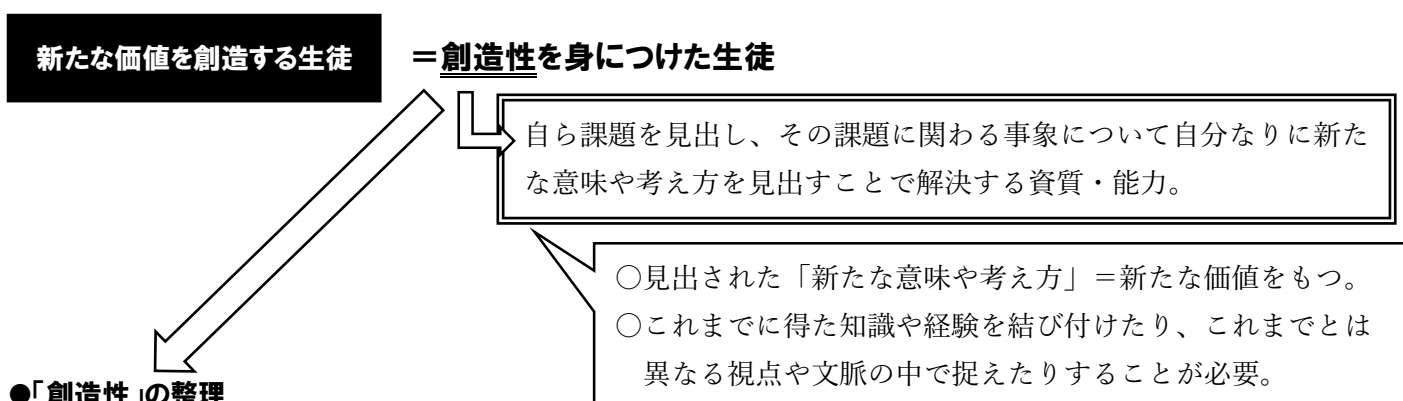
新たな価値を創造する生徒の育成

～「主体的な学び」のプロセスモデルを生かした実践を通して～

《研究の背景》

生徒の実態	現在と未来の世界	スクールプラン	4校園の共同研究	昨年度までの研究
<p>○良さ 自律的動機づけが高いこと。 ＝主体的な学び</p> <p>○課題 内的調整、興味価値を維持すること。 ＝学習内容の面白さを実感させる。</p>	<p>○VUCA Volatility (変動性) Uncertainty (不確実性) Complexity (複雑性) Ambiguity (曖昧性)</p> <p>○Society 5.0 IoT、AI、ビッグデータ、ロボットの活用。 人間の役割は「創造性」</p>	<p>「個人の尊厳を重んじ、多様な文化や価値観を受け入れ、自ら課題を見いだし、解決に努力する積極性・先見性・創造性に富んだ子ども」の育成を目指した教育課程。</p>	<p>・非認知能力の育成に着目。中学校では「GRIT」(＝粘り強くやり遂げる力)など。</p> <p>・「きりのは」探究サイクルを活用した学びの中で育成する。</p>	<p>・「主体的な学び」のプロセスモデル実現を目指した授業実践。</p> <p>・「主体的に学習に取り組む態度」の評価と授業改善への活用方法など。</p>

《研究内容について》



学習指導要領総則	21世紀型能力	知的財産戦略本部第3回検証・評価・企画委員会資料
<p>・感性を豊かに働かせながら、思いや考えを基に構想し、新しい意味や価値を創造していく資質・能力</p>	<p>・問題の発見・解決、新しいアイデアの生成にかかわる問題解決・発見力・創造力</p> <p>・日常生活や社会、環境の中に問題を見つけ出し、自分の知識を総動員して、自分やコミュニティ、社会にとって価値のある解を導くことが出来る力</p>	<p>・創造的な思考等の基礎となる知識・技能</p> <p>・創造的に思考・判断・表現する力</p> <p>・新たな知的創造に向かう情意や態度等</p>

○本校の考える「創造性」を資質・能力の3つの柱で整理すると

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
課題の解決に必要な知識及び技能	自ら見出した課題の解決に向かって、新しい知見や技術革新を取り入れながら、これまでに得た知識や経験を結びつけ、新たな意味や考え方を見出す思考力、判断力、表現力	自ら課題を見出し、その解決に主体的に取り組もうとする態度

これまでの取り組み

(1)「主体的な学び」のプロセスモデルを意識させながら、学びに向かわせる手立てについて

[1年次]

○「主体的な学び」のプロセスモデルのうち、「目標設定」「振り返り」「全体の振り返り」を中心に、「学習の調整」をさせるための工夫や「生徒を没頭させる教材」の開発などについて実践する。

[2年次]

○「主体的な学び」のプロセスモデルにおける「学習方略」を言語化し、生徒と共有することを目指す。

(2)「創造性」のうち「思考力、判断力、表現力等」として整理された資質・能力を育成する手立てについて

[1年次]

○知識や経験を結び付け、その意味を改めて問う学習やこれまでとは異なる視点や文脈を与え、その中で考えさせる学習を仕組む。

[2年次]

○各教科における「新たな意味や考え方を見出す思考力、判断力、表現力等」を明確にする。

○育成のための手立てを整理したり、新たな手立てを考えたりする。

○「新たな意味や考え方を見出す思考力、判断力、表現力等」を見取るための評価を工夫し、その評価をもとに、教師が指導の改善を行う。

3年次の方向性

「主体的な学び」のプロセスモデルを生かした、「新たな価値を創造する生徒」を育むための授業実践のあり方をまとめる。

《工夫のポイント》

(1)「主体的な学び」のプロセスモデルを意識させながら、学びに向かわせる手立てについて

○「学習方略」を「創造性」の育成や各教科の目標の達成につながるものへと高めるための手立てを考える。

→各教科の見方・考え方にに基づき、「学習方略」をどのレベルまで、どのように高めたいか明確にする。

(2)「創造性」のうち「思考力、判断力、表現力等」として整理された資質・能力を育成する手立てについて

○明確な評価規準を生徒に提示する。(または、教師側で設定しておく。)

→生徒に思考させる内容を焦点化し、B評価の具体的な姿を示す。

その際、単元の学習を重ねるごとに思考が深まったり、発展したりするよう工夫する。